

1、 総務本部報告

依然として厳しい環境の下、会員登録人員は6 2 0 0名弱となり、今後の組織運営に大きな影響支障が出ることは避けられません。今後も継続して、組織の拡大、会員サービスの強化が重要と考えます。

(1) 決算について

スノーボードクロス事業が9 5 万円の大幅赤字決算となり、急遽、より一段の緊縮財政を実施いたしました結果、従来と同じ会計方式で単年度マイナス3 2 万円(発生主義ではマイナス8 5 万円) に留める事が出来ました。会員の皆様のご理解、ご協力に感謝いたします。

(2) 会計運営と発生主義

平成1 0 年度より、未収金、未払金などを含んだ会計方式となりましたが、今年度から発生主義(実際の入出金が生じた時点で処理) とさせていただきました。これにより、当年度の現預金残高と次期繰越収支差額が一致し、わかりやすい会計とすることができます。会計業務では、事務局により日々の伝票発行、PCA 会計への入力が問題なく行われ、会計に関する詳細な確認も毎月実施いたしました。ただ、担当理事を含めた関係者の負担も大きく、財団法人用の会計ソフトへの入れ替えや、会計事務所等の活用について検討が必要と思われる。

(3) マスメディアの活用

本年度は、事業計画書、事業報告書、予算、決算書、評議員会議事録、理事会議事録、などの情報を Web にて積極的に公開いたしました。Web でのトピックスは1 8 0 件、各種委員会の報告をはじめ、行事のレポートについては、広報委員会の協力により、1 0 2 件と過去最高の掲載を行いました。その結果、年間で1 0 1 万ページビューと多くお方にご利用いただいております。実績として、神奈川新聞社、読売新聞社、スキージャーナル社、スキーグラフィック社等に各種リザルト、お知らせや案内などを掲載していただくなど、成果がありました。

(4) 登録関係

登録作業がようやくスムーズになりましたが、まだ問題がありますので、さらなる改善要望を SAJ に働きかけていきます。

(5) 協賛会員拡大と充実について

協賛会員の拡大については、尾瀬勤労休暇センター、八海山麓スキー場、菅平ハーレースキー場、ガーラ湯沢スキー場など、スキー場を中心に拡大の成果がありました。今後、更なる拡大を目指すには、Web でのリンク、バナーなどの取り扱いや、ユニフォーム等へのロゴ入れ、また新たなカテゴリーへの働きかけなどが必要であると考えます。

(6) 規約規程関係

規約規程では、ブロック規程を新設いたしました。また、運営規則、役員選出規程の見直しを行い、改訂を行いました。

(7) その他

現在の事務所が手狭であり、会議、作業などに支障がでていることから、新事務所構想の検討を開始する予定でしたが、厳しい財政状況の中、今期は見送りいたしました。継続検討とさせていただきます。